

Nihon Ongaku Shudan (Pro Musica Nipponia)

日本音楽集団

第112回◆定期演奏会

1990年2月5日(月) 午後7時開演
パリオ・ホール

日本音楽集団 TEL 03-378-4741

〒151 東京都渋谷区笹塚3-17-1 滝沢ビル302

ごあいさつ

今宵はおさむい中、日本音楽集団のコンサートへおいで頂きありがとうございます。創立25周年記念コンサートシリーズの最後、又、1990年代幕明けのコンサートを、華々しく笛と打楽器により飾りたいと思います。

音楽集団の中でもこのセクションほど、様々なジャンルの人間が集まっているところはないでしょう。邦楽囃子方、尺八吹き、インド音楽、洋楽クラシック、ポップス、マルチパーカッション、等々。

今回はゲストとして、国際的マリンバ奏者安倍圭子氏と、アフリカンパーカッションの阿達彰義氏をお迎えしています。又、集団を代表する作曲家長沢は「颯踏」(1975年12月)以来15年ぶりの笛・打楽器編成の新作の発表です。若手秋岸の新作も含めて新たな音楽シーンを集団のステージに展開してまいります。

最後までごゆっくりお楽しみ下さい。

笛・打楽器奏者一同

プログラム

一、撃壤歌(げきじょうか)〈初演〉(1989年)

秋岸寛久 作曲

〔 笛 〕 西川 浩平

〔打楽器〕 I—黒坂 昇 II—前田 文男 III—細谷 一郎 IV—高橋 明邦

「日出でて作(な)し、日入りて息(いこ)う……」

中国堯帝のとき、道で「撃壤」していた老人が、昔の理想的な生活をこう歌いました。人々が堯の徳を讃えている中でこの老人は「私の生活には関係ないこと」と、悠々自適の生活をしていました。そのおおらかさと、撃壤(=大地をたたいて太平を謳歌すること)のイメージが、笛と太鼓という素朴な楽器にふさわしく思えました。(秋岸寛久)

二、擣(と)う(1967年)

三木 稔 作曲

〔打楽器〕 I—望月太喜之丞 II—細谷 一郎

「擣は擣衣(きぬた)の擣で打ちたたくことを意味する語である。あるいは音声としての Toh! という気合いをも連想させられる。それは又、二人の奏者による打楽器群の「闘」でもある。」(初演プログラムより) (初演は1967年11月、第6回定期演奏会に於て、「三群のための形象」の三曲目として発表された。)

今夜は、長唄囃子界の若手のホープ、望月太喜之丞と、今や、マルチソロパーカショニストとして活躍中の、細谷一郎による「トウ」をお聴かせいたします。乞う、御期待! (高橋明邦)

三、FOREVER ELEPHANTS 〈委嘱初演〉(1990年) 阿達彰義 作曲

〔客 演〕 阿達 彰義 (トーキング・ドラム)

〔 笛 〕 藤崎 重康 竹井 誠

〔打楽器〕 I—細谷 一郎 II—堅田 啓輝 III—前田 文男 IV—望月太喜之丞
V—尾崎 太一 VI—黒坂 昇

自然と人間の〈エゴ〉との戦い、といったテーマで作曲しました。単純なリズムの上に複雑な音符がからみます。平和な大地を人的圧力が乱し、象牙の残骸と共に、悲鳴にも似た声が聞こえます。しかし自然界の絶大なる力の中に、全てのみこまれた時、人間の善意も芽を出します。(阿達彰義)

阿達彰義氏プロフィール

愛媛県松山出身。1975年東京音楽大学打楽器科を卒業。その後渡米。New YorkでJazz Drumを、Puerto RicoでLatin Percussionを研修。'79年帰国後演奏活動に入る。ライブ演奏、スタジオレコーディング、又、音楽学校の講師等、後継者の育成にも、力をそそいでいる。

四、風流変容(ふりゆうへんよう) — 笛と打楽器による — 〈初演〉(1990年)

長沢勝俊 作曲

〔 笛 〕 望月 太八

〔打楽器〕 I—尾崎 太一 II—望月太喜之丞 III—堅田 啓輝

風流とは元来「華やか」なことを意味し、平安末期から室町期にかけて祇園会や御霊会のさいの囃子や踊りのことをいった。また新興芸能や、念仏踊などと結びついて現代にまで伝えられている。

私は風流の笛の中に人間の息を感じ、打楽器の中に人間の鼓動を聞いてきた。この曲はその土俗的な響の中から、現代にもつながる共通なものを求めようとしたものである。(長沢勝俊)

五、マリンバ・スピリチュアル(1984年)

三木 稔 作曲

〔特別出演〕安倍 圭子 (マリンバ)

〔打楽器〕 I—尾崎 太一 II—高橋 明邦 III—堅田 啓輝

「この曲は、1983年から84年にかけて、当時アジア、アフリカで進行中だった悲惨な飢餓を思い、前半はその犠牲者達へのスタティックな〔魂鎮め〕、後半は〔魂振り〕を願ってダイナミックに作曲された。後半のリズム型は、〈巨火〉にも採用され、秩父屋台囃子をもとにしている。」(楽譜解説より)

初演は、'84年「アムステルダム新打楽器グループ」と安倍圭子氏によって行なわれ、以来、氏は世界最高の打楽器グループの殆んど共演し、常に大成功を得ておられます。この度、氏の多大なるご協力を得て、この世界的な作品を、日本音楽集団のお客様にお聞かせ出来ることを大変嬉しく思います。私共、純日本製の「屋台囃子」と、どう絡みますか。乞う、ご期待！(高橋明邦)



安倍圭子 プロフィール

欧米と日本を往復しての多忙な演奏活動が続ける、国際的マリンバ奏者。新たな奏法の開拓と、作曲家との共同作業によるマリンバ作品の開発を通し、独奏楽器の域を高めた。彼女の委嘱による作品は50曲余りにもなり、自作も含め現在世界中のマリンバ奏者のレパートリーに用いられている。日本では、レコードとリサイタルの両面で過去5回にわたり芸術祭優秀賞・奨励賞を受賞。最近では世界各国でのリサイタルや音楽祭出演、欧米数十校に及ぶ音楽大学での指導など海外における活躍が目立つ。ジャンルに捉われない彼女独自の音楽世界は高い人気と評価を得ている。(桐朋学園大学講師、相愛大学講師、ユトリヒト音楽大学(オランダ)客員教授。世界各国50校の音楽大学のマスタークラスを指導。)

箏

二十絃箏

箏を愛するすべての人の繊細な感情を忠実に音に表現するために、楽器の本質を追求した箏



日本音楽集団推薦

琴光堂和楽器店

東京都目黒区碑文谷2-19-15 TEL(792)8481 FAX(792)8437

祝 創立25周年



アイ・エム・エス

●楽器リース●保管●移動●ステージ・スタッフ派遣

〒167 東京都杉並区上荻 2-21-25
オリオンシャトー1F
PHONE. 03-397-2292